

1.回復状況

圏域	R元 (実績値)	R5 (速報値)	H31(R1)年比	回復率の分析
			大崎圏域	77万人泊

2.数値目標の設定

R9 (目標値)	目標値設定理由
87万人泊	観光資源の活用・開発により集客の見込めるイベント等の実施、インバウンドや教育・研修旅行等を増加させることなどによりコロナ禍で減少した入込観光客数の回復を図る。また、滞在型や圏域内での周遊型観光を推進することで、1人あたりの宿泊数の増加、入込観光客数に対する宿泊観光客数の割合の上昇を図る。

設定の考え方：

- ①大崎圏域における入込観光客数を、令和5年実績より20%増加させる。
- ②令和9年における想定入込観光客数971万人に対する宿泊観光客割合を、令和元年～5年の平均値より2%多い9.0%とする。

①大崎圏域の入込観光客数の推移及び想定

(単位:万人)

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
大崎圏域	940.6	659.0	626.7	709.2	809.4

令和9年	R5→R9の 増加率(%)
971.3	20.0

②入込観光客数に対する宿泊観光客割合

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
入込観光客数(人)	9,406,088	6,589,648	6,266,889	7,091,535	8,093,925
宿泊観光客数(人)	767,571	468,266	391,873	475,348	537,262
宿泊客割合(%)	8.2	7.1	6.3	6.7	6.6

令和元年～5年の 宿泊客割合平均	令和9年における 宿泊客割合
7.0%	9.0%

◆ 971(万人) × 9.0(%) ÷ **87万人**